平成十一年四月二十七日受領
答弁第一〇号

内閣衆質一四五第一〇号

平成十一年四月二十七日

内閣総理大臣 小 淵 恵 三

衆議院議長 伊藤宗一郎殿

衆議院議員北村哲男君提出行刑施設被収容者の領置物の総量規制に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員北村哲男君提出行刑施設被収容者の領置物の総量規制に関する質問に対する答弁書

一について

御質問の運用内規については、被収容者の領置物の管理に関する規則（平成九年法務省令第三十八号。以下「規則」という。）の施行に当たり、被収容者一人当たりの領置物の総量の具体的定め方について参考例を示すなどして規則の円滑かつ適正な運用に資するため、平成九年七月二十五日付けをもつて、法務省矯正局総務課矯正調査官から事務連絡「被収容者の領置物の管理に関する運用について」が発出されており、その内容は、別紙一のとおりである。また、最近、被収容者の訴訟記録の取扱いについて再確認するため、平成十一年三月二十九日付け法務省矯正局総務課長通知「被収容者の領置物の管理に関する規則（平成九年法務省令第三十八号）の運用上の参考事項について」が発出されており、その内容は、別紙二のとおりである。

二の1について

御質問の「衣類の総量を保管するための容量」、「衣類臥具以外の物の保管量」及び「被収容者一人当たりの領置物の総量」については、別表一のとおりである。

二の 2 について

御質問の「領置倉庫において保管することができる容量」及び「収容定員」については、別表二のおりである。

二の 3 について

御質問の実収容人員及び昨年の一平均収容人員については、別表三のとおりである。

二の 4 について

御質問の各施設で実際に領置している領置物の総量については、別表四のとおりである。

なお、本質問主意書提出時点での領置物の総量については、既に出所している者がいることから、調査することが困難であったため、本年三月三日時点で実際に領置している領置物の総量を調査して計上した。

二の 5 について

御質問の「被収容者一人当たりの領置物の総量」を超過していた被収容者の人数及び超過容量の合計については、別表五のとおりである。

三について

御質問の物品の購入又は差入れを不許可とした事例については、別表六のとおりである。

なお、いずれの事例も、同表の「処分の根拠となった数量超過の細目」欄記載の衣類の種類ごとの個数又は衣類臥具^が以外の物の一人当たりの保管量を超過するだけでなく、一人当たりの領置物の総量をも超過するものである。

四の1について

御指摘のとおり、「監獄法改正の骨子となる要綱案説明書」には、監獄法（明治四十一年法律第二十八号）第五十一条第二項の規定の趣旨が、物の性質上保存の価値なく、又は保存に不相当と認める場合に限りられており、被収容者の領置物が多量に上るため、刑事施設の管理運営上不相当と認める場合であっても、この規定に基づき領置をせず、又は領置を解くことはできないと解される旨の記載があるところ、現在も同様に解している。

規則は、監獄法第五十一条第二項の規定を根拠とするものではなく、差入れに関する制限を命令に委任した監獄法第五十三条第一項に基づき、行刑施設の長が、被収容者一人当たりの領置物の総量を設定する

とともに、その量を超えるときには、新たな購入又は差入れを許さないことができることとしたものである。

四の2について

規則は、被收容者の領置物を保管、管理するための領置倉庫の保管能力やその保管、管理に従事する職員数には限界があり、特に、一部の行刑施設においては、特定の被收容者が多量の領置物を有するため領置倉庫に収納しきれない状態が生じるなど、被收容者の領置物の適正かつ良好な管理に支障を来たしている状況にあったことから、限られた人的、物的条件の下で、被收容者間の処遇の公平に配慮しつつ、領置物の適正かつ良好な管理を図るために定められたものである。しかし、規則は、監獄法第五十三条第一項の委任に基づくものであり、規則の下においては、自弁物品の購入又は差入れを制限することはできないが、被收容者の物を強制的に処分又は廃棄することができるものではない。これに対し、第二百十回国会提出に係る刑事施設法案（以下「刑事施設法案」という。）においては、被收容者の物品が著しく多量であるため刑事施設における被收容者の物品の適正な管理に支障を生ずるおそれがあるとして領置しない物品については、強制的にこれを処分する、又は廃棄することができる旨の規定（刑事施設法案第二百二十六

条第四項）が置かれている。このように、両者の制限措置には、効果に違いがあり、規則が刑事施設法案に比べ絞りを外したとの比較は適当ではないと考える。

行刑施設においては、被收容者の法的地位に応じ、その收容目的のために必要かつ合理的な範囲において被收容者の権利及び自由が制限されるほか、多数の被收容者を外部から隔離して收容し、施設内でこれらの者を集団として管理するに当たっては、内部における規律及び秩序を維持し、その正常な状態を保持する必要があることから、この目的のために必要がある場合には、この面から被收容者の権利及び自由について一定の制限が加えられることはやむを得ないところである。このことは、被收容者の物品の購入又は差入れについても、前述のとおり、人的、物的条件が限られている以上、同様に当てはまることである。規則は、以上の点を踏まえ、一般社会においても、自己の所有物がその生活空間に比較して多量となったときには、最も必要な物を手元に置き、不要な物を廃棄し、必要な物を他人に預けるなど、適宜の措置を講ずるのが通常であるという一般常識を行刑施設に適用して、必要かつ合理的な範囲内で制限を課し得るとしたものであり、憲法との関係で問題があるものとは考えていない。

また、規則は、監獄法第五十三条第一項の委任に基づき、領置物の適正かつ良好な管理を図るため、行

刑施設の長が被収容者一人当たりの領置物の総量を合理的な方法により定め、その総量を超える場合について自弁物品の購入又は差入れを制限することができるものであつて、被収容者の物を強制的に廃棄することを規定したのではなく、監獄法その他の法令に違反するものとは考えていない。

四の3について

被収容者の領置物を保管、管理するための領置倉庫の保管能力やその保管、管理に従事する職員数には限界があり、この限られた人的、物的条件の下で、被収容者間の処遇の公平に配慮しつつ、領置物の適正かつ良好な管理を図るためには、各施設の領置倉庫の保管能力の状況に応じて、行刑施設の長が一律に、かつ、相当量の領置物の保管を可能とする容量として、被収容者一人当たりの領置物の総量を定めるのが最も合理的である。

仮に、被収容者一人当たりの領置物の総量を定めるに当たつて、被収容者ごとの個別的事情を考慮するとすれば、在監期間の長短、家族関係、宅下げの状況等ばかりではなく、例えば、未決拘禁者の刑事事件の複雑性及び裁判の進行の状況、各被収容者の経歴、個人的希望、出所後の職業及び生活上の必要性等についても考慮を要することとなるが、これらの被収容者ごとの事情は極めて多数の要素から成つており、

特定の要素に着目して被收容者一人当たりの領置物の総量決定の基礎とすることは、むしろ不公平な結果をもたらし、不合理である。

したがって、御質問に係る個別的事情は、「被收容者一人当たりの領置物の総量」を定めるに当たって考慮するのではなく、衣類臥具又は衣類臥具以外の物の購入又は差入れを制限するか否かを判断する際に、おいて考慮すべきものと考えている。すなわち、規則第五条から第八条までの各規定は、被收容者一人当たりの領置物の総量を超えれば、いかなる場合であっても新たな購入又は差入れを不許可とすべしとするものではなく、例えば、当該被收容者について、適当な宅下げ先の有無、領置物の増大をもたらした理由、在監期間の長短等の個別具体的な事情に照らし、特別の理由があると認められる場合には、新たな購入又は差入れを許可するという各行刑施設の長の合理的裁量権の行使までも否定するものではないのである。

四の4について

被收容者一人当たりの領置物の総量については、被收容者間の公平な処遇に配慮しつつ、領置物の適正かつ良好な管理を図る観点から、領置倉庫の容量を收容定員で除し、その数値を参考にして定めることと

している。仮に、領置倉庫が全体として逼迫状況にない限り規制できないこととすると、收容人員の増加により、たちまち領置物を領置倉庫に収納しきれない事態に陥るおそれがあるからであり、そのような規制方法は採用しなかつたものである。

領置倉庫の容量を收容定員で除し、その数値を参考にして被收容者一人当たりの総量を定める場合には、收容人員が收容定員を下回っていれば、確かに領置倉庫の全体としての容量には余裕があることになるが、被收容者の收容状況は常に変動していることから、各施設においては、仮に、收容人員が收容定員を上回ることがあつたとしても、領置物を適正かつ良好に管理するために必要な収納場所を確保しておくことが望ましいといふべきであり、これを無駄遣いといふのは当たらない。

五の 1 について

規則は、領置物を保管、管理するための領置倉庫の保管能力やその保管、管理に従事する職員数には限界があり、特に、一部の行刑施設においては、特定の被收容者が多量の領置物を有するため領置倉庫に収納しきれない状態が生じるなど、被收容者の領置物の適正かつ良好な管理に支障を来している状況にあつたことから、監獄法第五十三条第一項の委任に基づき、行刑施設の長が各施設の領置倉庫の保管容量

等に応じて被収容者一人当たりの領置物の総量を定め、その量を超えた場合に、その者の購入又は差入れを許さないことができることとしたものである。かかる規則は、限られた人的、物的条件の下で、被収容者間の処遇の公平に配慮しつつ、領置物の適正かつ良好な管理を図るため、必要かつ合理的なものであると考える。

訴訟関係書類については、監獄法第四十八条に規定する「裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル文書」に該当する場合には、同法第四十九条が「本人閲読ノ後之ヲ領置ス」と規定している趣旨を勘案して、規則による規制の対象から除外し、当該在監者の領置物の保管量にかかわらず領置することとしている。これに該当しない場合には、規則にいう「被収容者一人当たりの領置物の総量」に含まれるものとして取り扱うことになるが、この場合であっても、規則は、被収容者が訴訟関係書類を閲読し、検討すること自体を何ら制限するものでないことはもちろん、被収容者は一人当たりの領置物の総量の範囲内で必要な訴訟関係書類の保管をすることができ、その総量を超える場合であっても、他の領置物を宅下げすること等により、領置することができる空間を空けて必要な訴訟関係書類の保管ができるのであって、防御権に不当な制限を加えるものではない。さらに、本規則については、刑事被告人の防御権の重要性にかんが

み、個別の事案に応じて適切な運用をしているところである。

五の2について

監獄法上の領置は、行刑施設内における私物使用制限等の管理目的から、被收容者の私物について、その占有を行刑施設に強制的に移して占有を継続する行為であるところ、同法第五十一条が「在監者ノ携有スル物ハ点検シテ之ヲ領置ス」として房内で使用する物品か否かにかかわらず領置するものとしていることから明らかなとおり、被收容者が房内で現に所持する衣類、書籍、日用品等であっても、監獄法上の領置物であることに変わりはない。これら房内で所持する物品は、領置を解くことなく、いわゆる「仮出し」によりその使用を一時許可したものにすぎないことから、基本的には、規則の「被收容者一人当たりの領置物の総量」に含まれ得るものである。

しかしながら、規則が主として領置倉庫における領置物の適正かつ良好な管理を図ることを目的として制定されたものであることから、領置倉庫において保管せずに房内で現に所持している衣類、書籍、日用品等の物品については、計算上、領置倉庫に保管されている物品にこれらの物品を含めると「被收容者一人当たりの領置物の総量」を超える場合であっても、規則の運用上は、直ちに「被收容者一人当たりの領

置物の総量」を超えているとして差入れ等の制限を行うことはしないこととしている。このことは、房内で現に所持している訴訟関係書類についても同様である。

事務連絡
平成 9 年 7 月 25 日

行刑施設の主管部長 殿
矯正管区の第一部長 殿 (参考送付)
矯正研修所教頭 殿 (参考送付)

矯正局総務課矯正調査官 児 玉 一 雄

被収容者の領置物の管理に関する運用について

本年 4 月 23 日、被収容者の領置物の管理に関する規則（平成 9 年法務省令第 38 号）が公布され、同規則に関する矯正局長通達及び総務課長通知も発出されているところ、本年 10 月 1 日の施行を前にして、各施設におかれては、本省令の施策が円滑に実施できるよう準備を進められていることと思いますが、「被収容者一人当たりの領置物の総量を具体的にどのように定めればよいか。」等の疑問に答えるため、下記のとおり参考例示等を示しますので、参照願います。

記

1 「被収容者一人当たりの領置物の総量」の定め方について

(1) A 拘置所の領置倉庫等の概要

A 拘置所は、収容定員 392 名であり、領置倉庫において領置物を保管管理している。同領置倉庫は、床面積 64.35 m² で床から天井までの高さは 3.3 m であり、可動式の領置棚が 5 台（1 台につき 12 棚）設置されている。

(2) A 拘置所における被収容者一人当たりの総量の定め方

ア 領置倉庫内の状況（別添 1 参照）

(ア) 通路等

領置倉庫には、可動式領置棚を囲むように、入口から横に幅 93 cm × 長さ 915 cm の通路及び奥側に幅 10 cm × 長さ 750 cm の領置棚可動スペースが設けられ、さらに、入口から縦に幅 105 cm × 長さ 460 cm の通路及び奥側に幅 105 cm × 長さ 585 cm の通路が設けられてい

る。また、可動式領置棚内の通路として、幅 150 cm × 長さ 450 cm が設けられている。

通路等の面積

$$(0.93 \times 9.15) + (0.1 \times 7.5) + (1.05 \times 4.6) + (1.05 \times 5.85) + (1.5 \times 4.5) = 26.982 \text{ m}^2$$

(イ) 事務机

領置倉庫内に、幅 160 cm × 奥行 80 cm (1.28 m²) × 高さ 70 cm (896 リットル) の事務机を設置している。

(ウ) 臥具の保管

臥具については、領置倉庫内に幅 115 cm × 奥行 60 cm (0.69 m²) × 高さ 200 cm (1,380 リットル) の固定式保管棚を 3 台 (合計 2.07 m² 4,140 リットル) 設置し、保管している。

(エ) 特別領置物品の保管

特別領置物品については、領置倉庫内に幅 150 cm × 奥行 80 cm (1.2 m²) × 高さ 160 cm (1,920 リットル) の保管庫を備え、管理している。

(オ) トランク、大型バッグ等の不定型物の保管

トランク、大型バッグ等の不定型物については、領置倉庫内の幅 275 cm × 奥行 80 cm (2.2 m²) のスペースに保管することとしている。

(カ) 仮留品の保管

仮留品については、領置倉庫内に幅 115 cm × 奥行 60 cm (0.69 m²) × 高さ 200 cm (1,380 リットル) の固定式保管棚を 1 台備え、保管することとしている。

※ 仮留品は、その性質上、被収容者に相当の処分をさせるなど速やかにてん末をつけるべきものであるから、領置倉庫内に仮留品保管のためのスペースを設けるとしても、あまり広く設定すべきではない。

(キ) 図書の保管

図書については、領置倉庫内の入口から横に長さ 86 cm × 奥行 32 cm の書棚を 11 台 (棚総数 77 棚) 設置し、保管することとしている。

被収容者一人当たりの図書の保管スペースは、長さ 83 cm × 77 棚 ÷ 392 人 = 16.303 cm → 16 cm である。

※ 上記のとおり、領置倉庫内の領置棚に収納する領置容器による領置物の保管とは別に、領置倉庫内の書棚に図書のみを保管することとしているが、これは、本来は領置物の適正かつ良好な管理を図る上でも領置容器をもって保管管理すべきところ、仮出し等で出入りが頻繁な図書については、書棚に保管する方が利便であることから、トランク、大型バッグ等の不定型物などと同様、恩恵的に言わばおまけとして領置容器とは別の余分の保管を許容しようとするものであり、被収容者一人当たりの保管量を増やす趣旨ではない。その意味では、この取扱いは、2個の領置容器から空げき部分に領置物が若干はみ出ているも領置棚からの領置容器の出し入れに支障がなければ、「被収容者一人当たりの領置物の総量」を超過したものとして取り扱わなくても差し支えないとの取扱い（総務課長通知記の3(2)）と同様の考え方により許容されるものである。もっとも、図書についての別保管を認める以上、その保管量について一応の基準は必要であり、かつ、処遇の公平という点も勘案し、被収容者一人当たりの図書の保管量を書棚16cm分としたものである。もちろん、この書棚16cm分でしか図書は保管できないというものではなく、領置容器にも収納して差し支えない。

イ 「衣類」及び「衣類臥具以外の物」の保管

A拘置所では、領置する「衣類」及び「衣類臥具以外の物」の保管は、領置倉庫内の可動式領置棚5台に保管することとなるので、被収容者一人当たりの領置物の総量を定めるに当たっては、上記アの(ア)ないし(キ)を除外した上、実質的に可動式領置棚の容量を計算すればよいこととなる。

そこで、可動式領置棚の容量等を計算すると次のようになる。

(ア) 領置棚数は、1台につき12棚の可動式領置棚が5台あることから、棚の総数は、60棚である。

(イ) 1棚の容量は、次のとおりである。

長さ440cm×高さ35cm×奥行58cm=893.2リットル

- (ウ) (ア)と(イ)から領置棚全体の容量を算出すると、
1棚の容量×60棚=53,592リットル
となる。
- (エ) そこで、(ウ)を収容定員で除すると、被収容者一人当たりの領置物の容量が
53,592リットル÷392人=約136.7リットル
となるが、A拘置所では、領置物を収納するために容器を利用していることから、この領置容器の大きさがどの程度かを調べ、実際に領置棚全体に領置容器を何個置くことができるかについて調査する必要がある。
- (オ) A拘置所の領置容器の大きさは、
長さ31cm×高さ30cm×奥行55cm=51.15リットル
であり、領置棚に領置容器を置ける数は、
領置棚全体の容量(53,592リットル)÷領置容器の容量(51.15リットル)=約1,047.7個
となるが、実際には、1棚の長さ440cmに長さ31cmの領置容器を置くと14個しか置くことができず(領置棚に6cmの余裕が生じる。)、領置棚全体(60棚)に置くことのできる容器は、840個である。
- (カ) したがって、被収容者一人当たりの領置容器数を求めるため、領置棚全体に置ける容器数を収容定員で除すると、
840個÷392人=約2.14個
となり、被収容者一人当たりの領置容器数を2個(102.3リットル)と定めることとなる。
- ※ A拘置所においては、上記のように1棚に14個(7人分)の領置容器を置いて6cmの余裕しかないこととなるが、領置容器の大きさによっては、被収容者一人当たり20cmとかの空きスペースが生ずる可能性があり、そのような場合には、空きスペースに相当する容器を別に用意し、これにも領置物を保管することとすべきであろう。
- (キ) 領置倉庫における「衣類臥具以外の物」の保管量は、所長が定めた「衣類の種類ごとの個数」を領置容器に収めたところ、容器 $\frac{3}{4}$ 個に収まったので、領置

倉庫における「衣類臥具以外の物」の保管量は、容器
 $1\frac{1}{4}$ 個となる。

(3) A 拘置所における「衣類臥具以外の物」の保管量

上記(2)による算出の結果、A 拘置所における被収容者一人当たりの「衣類臥具以外の物」の保管量は、領置倉庫内の可動式領置棚に収納する領置容器 $1\frac{1}{4}$ 個（約 63.9 リットル）、また、「衣類」の保管量は、同領置容器 $\frac{3}{4}$ 個（約 38.3 リットル）ということとなる。

2 「生活の心得」等の記載事項について

矯正局長通達記の 6 及び総務課長通知記の 5(2)に基づき、「生活の心得」等に総量規制に関して記載する必要があるが、その例としては、衣類臥具については、所長が定めた種類及び種類ごとの個数の一覧表を掲載の上、これを超えるときは、購入・差入れの制限をされることがある旨を、また、衣類臥具以外の物については、別途指定する保管量を超えるときには、購入・差入れが制限される旨を記載することが相当であろう。

※ 衣類臥具については、品名ではなく種類を定め、その種類ごとの個数を定めることを要する。なお、種類及び品名を定めるに当たっての参考例として別添 2 参照（領置許可数については、施設の実情に応じて設定することとなる。また、二通りの基準を示しているのは、少なくともこの二通りの基準は必要であるとの趣旨であり、被収容者の法的地位に応じてより細分した基準とすることは、何ら差し支えないものである。）。

3 差入窓口での掲示例について

差入窓口での掲示の方法として、例えば、次のような例が考えられる。

「平成 9 年 10 月 1 日から、被収容者の領置物の管理に関する規則（平成 9 年法務省令第 38 号）により、被収容者一人当たりの領置物の総量として、衣類臥具の種類ごとの個数（別掲）及び衣類臥具以外の物の保管量が設定されることとなり、これを超える物品の差入れ（購入も同様）が制限される場合がありますので、注意願います。」

なお、総量規制により窓口での差入れを断る場合は、例えば、「掲示のとおり、B被収容者の領置物が、設定された一人当たりの領置物の総量（衣類臥具のみ断る場合は、衣類臥具の種類ごとの個数）を超えているため、差入れはできません。差入れが許されるためには、B被収容者が領置物を減らす必要がありますので、同人と相談してください。」等と説明することが相当であろう。

4 附則第2項による経過措置による許可保管数量の算出方法について

(1) 仮に、「被収容者一人当たりの領置物の総量」を収納するために指定された領置容器が2箱であり、その内訳としての「衣類の総数を保管するための容量」が $\frac{3}{4}$ 箱、「衣類臥具以外の物の保管量」は $1\frac{1}{4}$ 箱、さらに、衣類臥具の種類たる「下衣」の個数を6点、「肌着（下）」の個数を8点……と定めているA拘置所を想定すると、A拘置所における基準保管数量は、衣類臥具については「下衣」6点、「肌着（下）」8点……、衣類臥具以外の物の保管量については $1\frac{1}{4}$ 箱となる。

(2) 本省令の施行時に、被収容者が領置容器にして18箱を有しており、うち衣類については3箱で、「下衣」が14点、「肌着（下）」が20点…、また、衣類臥具以外の物については15箱であり、いずれも基準保管数量を超えていると想定する。

(3) 被収容者Bの施行時領置数量は、衣類については「下衣」14点、「肌着（下）」20点…、衣類臥具以外の物の容量15箱となる。

(4) この場合における附則第2項の表の上欄に定める五つの期間に対応する下欄の各許容保管数量の算出方法について、別添3参照。

※ 衣類臥具については、種類ごとの個数を基準として計算することとなるところ、計算して得られた個数に小数点以下の端数が生ずる場合には、切り上げることとなる。

別添 2

衣類隊具の種類及び品名例（未決用）

種 類	品 名 (衣 類 等)	備 考
防寒上衣	コート・オーバー ガウン 防寒ジャンパー 丹前 半てん・ちゃんちゃんこ 羽織	
上衣	ジャケット・ブレザー ジャンパー カッターシャツ・ワイシャツ・ 開襟シャツ ブラウス Tシャツ・ポロシャツ カーディガン・セーター チョッキ・ベスト トレーニングウェア（上） じんべい（上） ワンピース 袷（着物） 単衣（着物） 浴衣	上衣1，下衣1で換算する 上衣1，下衣1で換算する 上衣1，下衣1で換算する 上衣1，下衣1で換算する
下衣	ズボン スカート トレーニングウェア（下） じんべい（下） 半ズボン はかま	
肌着（上）	シャツ スリッパ・シュミーズ 襦袢 長襦袢	肌着（上）1，（下）1で換算する
肌着（下）	パンツ パンティ ズロース ズボン下（パッチ・ステテコ・ もも引き） ペチコート ガードル 腰巻き	
生理帯	生理帯	

ブラジャー	ブラジャー	
靴下	靴下 ハイソックス パンティストッキング・ストッキング タイツ 靴下カバー 足袋	
寝衣	パジャマ (寝巻) ネグリジェ	
腹巻	腹巻	
手袋	手袋	
耳袋	耳袋	
帯	帯	
帯びあげ	帯びあげ	
伊達巻	伊達巻	
帯締め	帯締め	
腰ひも	腰ひも	
ベルト	ベルト	
ネクタイ	ネクタイ	

種 類	品 名 (臥 具)	備 考
敷布団	敷布団	
掛布団	掛布団	
毛布	毛布 タオルケット	
敷布団カバー	敷布団カバー 敷布	
掛布団カバー	掛布団カバー 襟布	
枕	枕	
枕カバー	枕カバー	
座布団	座布団	
座布団カバー	座布団カバー	
寝ござ	寝ござ	
マットレス	マットレス	

衣類の種類及び品目例（受刑者用）

種 類	品 名	備 考
肌着（上）	シャツ スリッパ（シュミーズ）	女子受刑者に限る
肌着（下）	パンツ パンティ・ズロース ズボン下（パッチ・ステテコ・もも引き）	女子受刑者に限る
生理帯	生理帯	女子受刑者に限る
ブラジャー	ブラジャー	女子受刑者に限る
靴下	靴下 タイツ	女子受刑者に限る
寝衣	パジャマ（寝巻）	
手袋	手袋	
耳袋	耳袋	

（注）

上記表（未決用）は、未決拘禁者、死刑確定者、労役場留置者、拘留受刑者及び被監置者に対する例であり、また、上記表（受刑者用）は、懲役受刑者及び禁錮受刑者に対する例である。

別添 3

	標準保管数量	H 9.10. 1 ～H10. 3.31		H10. 4. 1 ～H10. 9.30		H10.10. 1 ～H11. 3.31		H11. 4. 1 ～H11. 9.30		H11.10. 1 ～H12. 9.30		H12.10. 1～
		許容保管数量 （施行時超過数量）	許容保管数量	許容保管数量	許容保管数量	許容保管数量	許容保管数量	許容保管数量	許容保管数量			
肌着(下)	8点 (20点-8点=12点)	20点 (20点-8点=12点)	(20点-8点)×3/4+8点 =17点	(20点-8点)×1/2+8点 =14点	(20点-8点)×1/4+8点 =11点	(20点-8点)×1/8+8点 =9.5点⇒10点	8点					8点
下衣	6点 (14点-6点=8点)	14点 (14点-6点=8点)	(14点-6点)×3/4+6点 =12点	(14点-6点)×1/2+6点 =10点	(14点-6点)×1/4+6点 =8点	(14点-6点)×1/8+6点 =7点	6点					6点
上衣												
肌着(上)												
靴下												
寝衣												
座布団												
マットレス												
衣類器具以外の物	1 $\frac{1}{4}$ 箱 15箱	15箱 (15箱-1 $\frac{1}{4}$ 箱=13 $\frac{3}{4}$ 箱)	(15箱-1 $\frac{1}{4}$ 箱)×3/4+1 $\frac{1}{4}$ 箱 =11 $\frac{9}{16}$ 箱≈11.6箱	(15箱-1 $\frac{1}{4}$ 箱)×1/2+1 $\frac{1}{4}$ 箱 =8 $\frac{1}{8}$ 箱≈8.1箱	(15箱-1 $\frac{1}{4}$ 箱)×1/4+1 $\frac{1}{4}$ 箱 =4 $\frac{11}{16}$ 箱≈4.7箱	(15箱-1 $\frac{1}{4}$ 箱)×1/8+1 $\frac{1}{4}$ 箱 =2 $\frac{31}{32}$ 箱≈3箱	1 $\frac{1}{4}$ 箱					1 $\frac{1}{4}$ 箱

法務省矯総第 973 号

平成 11 年 3 月 29 日

矯正管区長 殿
行刑施設の長 殿
矯正研修所長 殿（参考送付）

法務省矯正局総務課長 藤 田 昇 三

被収容者の領置物の管理に関する規則（平成 9 年法務省令第 38 号）の運用上の参考事項について（通知）

標記省令については、平成 9 年 5 月 30 日付け法務省矯総第 1319 号矯正局長通達「被収容者の領置物の管理に関する規則の運用について」及び同日付け法務省矯総第 1320 号当職通知「被収容者の領置物の総量規制に関する運用上の参考事項について」により、運用上の留意事項及び参考事項を明らかにしているところではありますが、最近、被収容者の訴訟記録の取扱いについて、一部に疑義を抱く向きもありますので、念のため、同省令の予定する運用につき、下記のとおり、補足しますので参考に願います。

記

標記省令第 5 条ないし第 8 条は、被収容者が衣類臥具又は衣類臥具以外の物の購入又は差入れを求める場合において、被収容者一人当たりの衣類臥具の個数又は衣類臥具以外の物の保管量を超えるとときは、その物の購入又は差入れを許さないことができる旨規定しているところ、これは、既に領置されている物につき強制的に廃棄等の処分をすることを認めたものでないことはもちろんのこと、被収容者一人当たりの総量を超えれば、いかなる場合であっても新たな購入又は差入れを不許可とすべしとするものではなく、当該被収容者について、例えば、適当な宅下げ先の有無、領置物の増大をもたらした理由、訴訟準備上の必要性の有無・程度等の個別具体的な事情に照らし、特別の理由があると認められる場合には、新たな差入れ等を許可するという所長の合理的裁量権の行使までも否定するものでないことは言うまでもありません。

なお、同省令の運用に関し、先日、全国の拘置所で被収容者に対し訴訟記録の処分を強要している旨の新聞報道がなされましたが、この点に関する同省令の考え方等は別紙のとおりですので、参考に願います。

別紙

「被収容者の領置物の管理に関する規則」について

1 標記省令の考え方

- (1) 平成9年10月1日から施行された標記省令により、行刑施設の長が、各被収容者につき、一人当たりの領置物の総量を定め、その量を超えるときには、新たな購入又は差入れを許さないことができるとしたが、同省令は、強制的に領置物を廃棄することを定めたものではない。
- (2) 同省令は、差入れに関する制限を命令に委任した監獄法第53条第1項に基づき制定したものであり、弁護士から差入れられる訴訟関係書類であっても、差入れである以上同条項及び同省令の規制を受ける。
- (3) しかし、同省令に基づき各施設で定められた被収容者一人当たりの領置物の総量は、相当量の保管を可能とする合理的なものとなっている上、被収容者はその総量の範囲内で領置する物を選択して、訴訟関係書類を多く領置してもらうことも可能である。また、同省令は、訴訟関係書類を閲読し検討することに何ら制限を加えるものではなく、閲読済みの訴訟関係書類を親族等に宅下げして新たな訴訟関係書類と入替えを行うなどすれば、無制限に閲読できるのである。

なお、被収容者がその居室内で所持する物の規制については、同省令による規制と直接関係するものではなく、居室内に無制限に書類を所持させると居室検査等に支障を来すという理由から、個々の施設の実情に応じてなされているものである。

2 標記省令の必要性

領置物を保管・管理するための領置倉庫の保管能力やその保管・管理に従事する職員数には限界があり、特に特定の被収容者が多量の領置物を有するため、領置倉庫の保管能力が限界に達

し、領置物の管理に支障を来している施設もあるという実情があったことから、監獄法第 53 条第 1 項の規定による委任を受けて、同省令は、多量の領置物を有する被収容者に対しては、購入又は差入れを許さないことができるとしたものであり、限られた人的、物的条件の下で、各被収容者間の公平に配慮しつつ、領置物の適正かつ良好な管理を図るため、必要かつ合理的な制限を設けたものである。

施設名	被収容者一人当たりの領置物の総量	衣類の総数を保管するための容量	衣類臥具以外の物の保管量
府中刑務所	四十三リットルの容器三個以内	四十三リットルの容器一個と四分の一個以内	四十三リットルの容器一個と四分の三個以内
八王子医療刑務所	四十六リットルの容器二個以内	四十六リットルの容器二分の一個以内	四十六リットルの容器一個と二分の一個以内
横浜刑務所	五十四リットルの容器二個以内	五十四リットルの容器四分の三個以内	五十四リットルの容器一個と四分の一個以内
横須賀刑務所	四十八リットルの容器二個と二分の一個以内	四十八リットルの容器一個以内	四十八リットルの容器一個と二分の一個以内
千葉刑務所	五十四リットルの容器二個以内	未決被収容者は、五十四リットルの容器一個と二分の一個以内、既決被収容者は、五十四リットルの容器一個以内	未決被収容者は、五十四リットルの容器二分の一個以内、既決被収容者は、五十四リットルの容器一個以内
市原刑務所	五十リットルの容器一個以内	五十リットルの容器二分の一個以内（ただし、労働場留置者については、五十リットルの容器三分	五十リットルの容器二分の一個以内（ただし、労働場留置者については、五十リットルの容器三分

甲府刑務所	静岡刑務所	前橋刑務所	栃木刑務所	黒羽刑務所	
四十五リットルの容器二個以内	五十三リットルの容器二個以内	五十リットルの容器二個以内	四十リットルの容器二個以内	九十リットル以内	
四十五リットルの容器一個以内	未決被収容者は、五十三リットルの容器一・二個以内(ただし、女子については、一・二個以内)、既決被収容者は、五十三リットルの容器一・二個以内(ただし、女子については、一・二個以内)	五十リットルの容器三分の一以内(ただし、未決被収容者及び労務留置者については、一個以内)	四十リットルの容器一個以内	三十リットル以内(ただし、未決被収容者及び労務留置者については、三十リットル以内)	の二個以内)
四十五リットルの容器一個以内	未決被収容者は、五十三リットルの容器一・二個以内(ただし、女子については、一・二個以内)、既決被収容者は、五十三リットルの容器一・二個以内(ただし、女子については、一・二個以内)	五十リットルの容器一個と三分の二以内(ただし、未決被収容者及び労務留置者については、一個以内)	四十リットルの容器一個以内	六十リットル以内(ただし、未決被収容者及び労務留置者については、六十リットル以内)	の一個以内)

大阪刑務所	三 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 二 個 以 内	未 決 被 収 容 者 は、 三 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 一 ・ 五 個	未 決 被 収 容 者 は、 三 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 〇 ・ 五 個
東京拘置所	四 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 二 個 と 二 分 の 一 個 以 内	未 決 被 収 容 者 は、 四 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 一 ・ 三 個 以 内 (た だ し、 女 子 に つ い て は、 一 ・ 四 個 以 内)、 既 決 被 収 容 者 は、 四 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 〇 ・ 四 個 以 内	未 決 被 収 容 者 は、 四 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 一 ・ 二 個 以 内 (た だ し、 女 子 に つ い て は、 一 ・ 一 個 以 内)、 既 決 被 収 容 者 は、 四 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 二 ・ 一 個 以 内
松本少年刑務所	四 十 リ ッ ト ル の 容 器 二 個 以 内	四 十 リ ッ ト ル の 容 器 一 個 以 内	四 十 リ ッ ト ル の 容 器 一 個 以 内
水戸少年刑務所	三 十 五 リ ッ ト ル の 容 器 二 個 以 内	未 決 被 収 容 者 は、 三 十 五 リ ッ ト ル の 容 器 一 個 以 内、 既 決 被 収 容 者 は、 三 十 五 リ ッ ト ル の 容 器 一 個 以 内	未 決 被 収 容 者 は、 三 十 五 リ ッ ト ル の 容 器 二 分 の 一 個 以 内、 既 決 被 収 容 者 は、 三 十 五 リ ッ ト ル の 容 器 一 個 以 内
川越少年刑務所	三 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 二 個 以 内	三 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 一 個 と 三 分 の 一 個 以 内	三 十 六 リ ッ ト ル の 容 器 三 分 の 二 個 以 内
新潟刑務所	百 八 リ ッ ト ル 以 内	七 十 九 リ ッ ト ル 以 内	二 十 九 リ ッ ト ル 以 内
長野刑務所	八 十 七 リ ッ ト ル の 容 器 一 個 以 内	八 十 七 リ ッ ト ル の 容 器 十 分 の 七 個 以 内	八 十 七 リ ッ ト ル の 容 器 十 分 の 三 個 以 内

京都刑務所	百九十五リットル以内	未決被収容者は、六十五リットル以内、既決被収容者は、四十三リットル以内	以内、既決被収容者は、三十六リットルの容器一・二五個以内
神戸刑務所	五十五リットルの容器二個以内	未決被収容者は、五十五リットルの容器一個と二分の容器は、五十五リットルの容器一個と四分の容器一個以内	以内、既決被収容者は、五十五リットルの容器二分の一個以内、既決被収容者は、五十五リットルの容器四分の三個以内
加古川刑務所	四十六リットルの容器二個以内	四十六リットルの容器一個と二分の一個以内	四十六リットルの容器二分の一個以内
滋賀刑務所	百十五リットル以内	未決被収容者は、六十二リットル以内、既決被収容者は、三十一リットル以内	未決被収容者は、五十三リットル以内、既決被収容者は、八十四リットル以内
和歌山刑務所	四十二リットルの容器二個以内	四十二リットルの容器一個と二分の一個以内	四十二リットルの容器二分の一個以内
姫路少年刑務所	五十七リットルの容器一	五十七リットルの容器二	五十七リットルの容器二

奈良少年刑務所	個以内	三十六リットルの容器二個以内	分の一個以内	三十六リットルの容器一個と三分の一個以内	分の一個以内
大阪拘置所	五十リットルの容器三個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個と四分の一個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器四分の三個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個と四分の三個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器二個と四分の一個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個と四分の三個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器二個と四分の一個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個と四分の三個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器二個と四分の一個以内
京都拘置所	五十リットルの容器二個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器〇・五個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器一・五個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器一・五個以内	未決被収容者は、五十リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器一・五個以内
神戸拘置所	五十八リットルの容器二個以内	未決被収容者は、五十八リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十八リットルの容器二分の一個以内	未決被収容者は、五十八リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十八リットルの容器一個と二分の一個以内	未決被収容者は、五十八リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十八リットルの容器一個と二分の一個以内	未決被収容者は、五十八リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十八リットルの容器一個と二分の一個以内
名古屋刑務所	七十二リットルの容器二個以内	七十二リットルの容器一個と四分の一個以内	七十二リットルの容器一分の三個以内	七十二リットルの容器四分の三個以内	七十二リットルの容器四分の三個以内
岡崎医療刑務所	五十二リットルの容器二	五十二リットルの容器一	五十二リットルの容器一	五十二リットルの容器一	五十二リットルの容器一

三重刑務所	個以内	五十二リットルの容器二個以内	五十二リットルの容器一個以内	五十二リットルの容器一個以内
岐阜刑務所	百十二リットル以内及び図書棚六十三リットル以内	四十二リットル以内	七十リットル以内及び図書棚六十三リットル以内	
笠松刑務所	三十四リットルの容器二個以内	三十四リットルの容器四分の三個以内	三十四リットルの容器一個と四分の一個以内	
福井刑務所	六十七リットルの容器二個以内	六十七リットルの容器一個以内	六十七リットルの容器一個以内	
金沢刑務所	六十リットルの容器三個以内	六十リットルの容器二個以内	六十リットルの容器一個以内	
富山刑務所	四十一リットルの容器二個以内	四十一リットルの容器一個以内	四十一リットルの容器一個以内	
名古屋拘置所	四十九リットルの容器二個以内	未決被収容者は、四十九リットルの容器一個以内、既決被収容者は、四十九リットルの容器二分の一個以内	未決被収容者は、四十九リットルの容器一個以内、既決被収容者は、四十九リットルの容器一個と二分の一個以内	
広島刑務所	七十二リットルの容器二	七十二リットルの容器一	七十二リットルの容器四	

	松江刑務所	広島拘置所	福岡刑務所	小倉刑務所	城野医療刑務所	麓刑務所
容者と既決被收容者の収納場所は同じ。)	百四リットル以内及び図書棚八リットル以内	百四十七リットル以内	百二十リットル以内及び図書棚六十リットル以内	九十五リットル以内	四十五リットルの容器一個と三分の一個以内	六十リットルの容器二個
	未決被收容者は、七十八リットル以内、既決被收容者は、五十二リットル以内	五十五リットル以内	未決被收容者は、九十六リットル以内、既決被收容者は、七十二リットル以内	未決被收容者は、四十四リットル以内、既決被收容者は、九リットル以内	四十五リットルの容器一個以内	六十リットルの容器一個
	未決被收容者は、二十六リットル以内及び図書棚八リットル以内、既決被收容者は、五十二リットル以内及び図書棚八リットル以内	九十二リットル以内	未決被收容者は、二十四リットル以内及び図書棚六十リットル以内、既決被收容者は、四十八リットル以内及び図書棚六十リットル以内	未決被收容者は、五十一リットル以内、既決被收容者は、八十六リットル以内	四十五リットルの容器三分の一個以内	六十リットルの容器二分

鹿兒島刑務所	熊本刑務所	大分刑務所	佐世保刑務所	長崎刑務所	
八十二リットルの容器二	五十リットルの容器二個以内	六十リットルの容器二個以内	未決被収容者は、百七十リットル以内、既決被収容者は、百二十七リットル以内（未決被収容者の領置物と既決被収容者の領置物の収納場所は別）	四十リットルの容器二個以内	以内
八十二リットルの容器四	未決被収容者は、五十リットルの容器三分の二個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器二分の一個以内	未決被収容者は、六十リットルの容器一個以内、既決被収容者は、六十リットルの容器五分の二個以内	未決被収容者は、百二十リットル以内、既決被収容者は、四十二リットル以内	未決被収容者は、四十リットルの容器一個と二分の一個以内、既決被収容者は、四十リットルの容器一個以内	と二分の一個以内
八十二リットルの容器一	未決被収容者は、五十リットルの容器一個と三分の一個以内、既決被収容者は、五十リットルの容器一個と二分の一個以内	未決被収容者は、六十リットルの容器一個以内、既決被収容者は、六十リットルの容器一個と五分の三個以内	未決被収容者は、五十リットル以内、既決被収容者は、八十五リットル以内	未決被収容者は、四十リットルの容器二分の一個以内、既決被収容者は、四十リットルの容器一個以内	の一個以内

宮崎刑務所	個以内	八十三リットルの容器一個以内及び図書棚二十四	未決被收容者は、八十三リットルの容器四分の三以内、既決被收容者は、八十三リットルの容器四分の一個以内	未決被收容者は、八十三リットルの容器四分の一個以内及び図書棚二十四リットル以内
沖繩刑務所	百三リットル以内	四十五リットル以内	未決被收容者は、五十五リットルの容器一個以内、既決被收容者は、五十五リットルの容器二分の一個以内	五十八リットル以内
佐賀少年刑務所	五十五リットルの容器二個以内	未決被收容者は、五十五リットルの容器一個以内、既決被收容者は、五十五リットルの容器二分の一個以内	未決被收容者は、五十五リットルの容器一個以内、既決被收容者は、五十五リットルの容器二分の一個以内	未決被收容者は、五十五リットルの容器一個以内、既決被收容者は、五十五リットルの容器二分の一個以内
福岡拘置所	百二十九リットル以内	未決被收容者は、六十リットル以内、既決被收容者は、四十リットル以内	未決被收容者は、六十リットル以内、既決被收容者は、四十リットル以内	未決被收容者は、六十九リットル以内、既決被收容者は、八十九リットル以内
宮城刑務所	四十三リットルの容器二個と二分の一個以内	四十三リットルの容器四分の三個以内	四十三リットルの容器四分の三個以内	四十三リットルの容器一個と四分の三個以内
福島刑務所	未決被收容者は、百十六	未決被收容者は、五十八	未決被收容者は、五十八	未決被收容者は、五十八

旭川刑務所	三十九リットルの容器三個以内	未決被収容者は、三十九リットルの容器二個以内、既決被収容者は、三十九リットルの容器二個以内	未決被収容者は、三十九リットルの容器一個以内、既決被収容者は、三十九リットルの容器一個以内
月形刑務所	六十四リットルの容器二個以内	六十四リットルの容器四分の三個以内	六十四リットルの容器一個と四分の一個以内
札幌刑務所	百四十リットル以内	八十リットル以内	六十リットル以内
盛岡少年刑務所	七十二リットルの容器一個以内	七十二リットルの容器三分の二個以内	七十二リットルの容器三分の一個以内
青森刑務所	八十リットル以内	四十リットル以内	四十リットル以内
秋田刑務所	百三十二リットル以内	九十九リットル以内	三十三リットル以内
山形刑務所	五十二リットルの容器三個以内	未決被収容者は、五十二リットルの容器二個以内、既決被収容者は、五十二リットルの容器一個以内	未決被収容者は、五十二リットルの容器一個以内、既決被収容者は、五十二リットルの容器二個以内
	リットル以内、既決被収容者は、百九リットル以内（未決被収容者と既決被収容者の領置物の収納場所は別）	リットル以内、既決被収容者は、三十六リットル以内	リットル以内、既決被収容者は、七十三リットル以内

徳島刑務所	高松刑務所	函館少年刑務所	網走刑務所	帯広刑務所	釧路刑務所	
六十八リットルの容器二個以内	三十八リットルの容器三個以内	五十二リットルの容器一個と三十八リットルの容器一個以内	百五リットル以内	八十五リットルの容器一個と二十五リットルの容器一個以内	百四十一リットル以内	
六十八リットルの容器一個以内	三十八リットルの容器一個以内	五十二リットルの容器一個以内	五十七リットル以内	未決被収容者は、八十五リットルの容器四分の三は、八十五リットルの容器二分の一個以内	未決被収容者は、六十四リットル以内、既決被収容者は、四十八リットル以内	十六リットルの容器一個以内
六十八リットルの容器一個以内	三十八リットルの容器一個以内	三十八リットルの容器一個以内	四十八リットル以内	未決被収容者は、八十五リットルの容器四分の一個と二十五リットルの容器二分の一個と二十五リットルの容器一個以内	未決被収容者は、七十七リットル以内、既決被収容者は、九十三リットル以内	十六リットルの容器二個以内

丸の内拘置支所	水戸拘置支所	浦和拘置支所	長野拘置支所	宇都宮拘置支所	横浜拘置支所	八王子拘置支所	松山刑務所	高知刑務所
七十二リットルの容器一	三十五リットルの容器二 個以内	九十二リットルの容器一 個以内	八十七リットルの容器一 個以内	四十五リットルの容器二 個以内	五十四リットルの容器二 個以内	五十五リットルの容器二 個以内	八十八リットル以内	六十四リットルの容器一 個以内
七十二リットルの容器四	三十五リットルの容器一 個と二分の一個以内	九十二リットルの容器二 分の一個以内	八十七リットルの容器十 分の七個以内	四十五リットルの容器二 分の一個以内	未決被収容者は、五十四 リットルの容器一個と四 分の一個以内、既決被収 容者は、五十四リットル の容器四分の三個以内	五十五リットルの容器一 個と四分の一個以内	六十四リットル以内	六十四リットルの容器三 分の二個以内
七十二リットルの容器四	三十五リットルの容器二 分の一個以内	九十二リットルの容器二 分の一個以内	八十七リットルの容器十 分の三個以内	四十五リットルの容器一 個と二分の一個以内	未決被収容者は、五十四 リットルの容器四分の三 個以内、既決被収容者 は、五十四リットルの容 器一個と四分の一個以内	五十五リットルの容器四 分の三個以内	二十四リットル以内	六十四リットルの容器三 分の一個以内

長崎拘置支所	個以内	四十リットルの容器二個以内	未決被収容者は、四十リットルの容器一個と二分の一個以内、既決被収容者は、四十リットルの容器一個以内	未決被収容者は、四十リットルの容器二分の一個以内、既決被収容者は、四十リットルの容器一個以内
京町拘置支所	百二十リットルの容器一個以内	未決被収容者は、百二十リットルの容器二分の一個以内、既決被収容者は、百二十リットルの容器三分の一個以内	未決被収容者は、百二十リットルの容器二分の一個以内、既決被収容者は、百二十リットルの容器三分の一個以内	未決被収容者は、百二十リットルの容器二分の一個以内、既決被収容者は、百二十リットルの容器三分の二個以内
鹿児島拘置支所	八十二リットルの容器一個以内	未決被収容者は、八十二リットルの容器四分の三個以内、既決被収容者は、八十二リットルの容器四分の一個以内	未決被収容者は、八十二リットルの容器四分の三個以内、既決被収容者は、八十二リットルの容器四分の一個以内	未決被収容者は、八十二リットルの容器四分の一個以内、既決被収容者は、八十二リットルの容器四分の三個以内
那覇拘置支所	百三リットル以内	四十五リットル以内	五十八リットル以内	
仙台拘置支所	四十三リットルの容器二個以内	四十三リットルの容器一個と十分の三個以内	四十三リットルの容器十分の七個以内	
柳町拘置支所	八十リットル以内	四十リットル以内	四十リットル以内	
札幌拘置支所	百四十リットル以内	八十リットル以内	六十リットル以内	

(注)

一 表中、特段の記載があるものを除き、「未決被收容者」とは、未決拘禁者、死刑確定者、拘留受刑者、労役場留置者及び被監置者を意味し、「既決被收容者」とは、懲役受刑者及び禁錮受刑者を意味する（別表二及び四についても同じ）。

二 複数の種類の容器を使用している施設については、容器の種類別の記載は余りに複雑になるため、容器の個数ではなく、容量（リットル）のみで計上している（別表二及び四についても同じ）。

別表二

施設名	領置倉庫において保管することができる容量	収容定員
府中刑務所	四十三リットルの容器五千四百四十二個	二千五百九十八人
八王子医療刑務所	四十六リットルの容器八百六十六個	四百三十三人
横浜刑務所	五十四リットルの容器千九百三十八個	千二百人
横須賀刑務所	四十八リットルの容器六百四十四個	二百二十七人
千葉刑務所	五十四リットルの容器千九百三十八個	九百三人
市原刑務所	五十リットルの容器四百六十三個	四百六十三人
黒羽刑務所	十四万千八百四十リットル	千五百七十六人
栃木刑務所	四十リットルの容器八百五十個	四百四十八人
前橋刑務所	五十リットルの容器千六百五十六	七百十六人

静岡刑務所	個	五十三リットルの容器千八百五十個	九百二十五人
甲府刑務所	個	四十五リットルの容器千四百四十個	六百人
長野刑務所	個	八十七リットルの容器八百八十六個	六百十人
新潟刑務所		九万二千二百二十リットル	八百七十七人
川越少年刑務所		三十六リットルの容器二千七百七十五個	千三百七十一人
水戸少年刑務所		三十五リットルの容器千個	五百人
松本少年刑務所		四十リットルの容器八百十個	四百五人
東京拘置所		四十六リットルの容器五千六百五十五個	二千百六十三人
大阪刑務所	個	三十六リットルの容器四千二百五十五個	二千人
京都刑務所		三十一万八千七百八十リットル	千五十一人

神戸刑務所	五十五リットルの容器三千七百三 個	千八百人
加古川刑務所	四十六リットルの容器九百三十個	五百六十六人
滋賀刑務所	七万七百二十五リットル	六百十五人
和歌山刑務所	四十二リットルの容器九百十二個	三百八十四人
姫路少年刑務所	五十七リットルの容器四百三十個	三百十五人
奈良少年刑務所	三十六リットルの容器九百八十四 個	七百二人
大阪拘置所	五十リットルの容器三千八百六個	二千二人
京都拘置所	五十リットルの容器八百八十八個	四百四十四人
神戸拘置所	五十八リットルの容器九百九十個	四百九十三人
名古屋刑務所	七十二リットルの容器三千八百四 十八個	千九百二十四人
岡崎医療刑務所	五十二リットルの容器五百七十六 個	二百六十五人

三重刑務所	五十二リットルの容器千六十個	七百二人
岐阜刑務所	七万四千二百九十リットル（図書棚を含む。）	七百五人
笠松刑務所	三十四リットルの容器八百五十九個	三百八十八人
福井刑務所	六十七リットルの容器七百二十個	三百四十七人
金沢刑務所	六十リットルの容器千七百九十四個	五百九十八人
富山刑務所	四十一リットルの容器千二十個	五百五人
名古屋拘置所	四十九リットルの容器千四百二十五個	六百九十六人
広島刑務所	七十二リットルの容器二千二百二十四個	千六十二人
山口刑務所	四万七千五百二十リットル	五百四十七人
岩国刑務所	四十五リットルの容器七百十個	三百五十五人
岡山刑務所	未決被収容者は、六十リットルの	未決被収容者は、百七十人、既決

	<p>容器四百四十個、既決被收容者は、六十九リットルの容器千三百二十個</p>	<p>被收容者は、五百六十三人</p>
<p>鳥取刑務所</p>	<p>未決被收容者は、五十八リットルの容器九十六個、既決被收容者は、五十八リットルの容器四百十七個、図書棚は法的地位等の別にかかわらず一万千五百三十二リットル</p>	<p>未決被收容者は、四十八人、既決被收容者は、四百十七人</p>
<p>松江刑務所</p>	<p>三万七千四百四十リットル及び図書棚三千四百リットル</p>	<p>四百五十二人</p>
<p>広島拘置所</p>	<p>五万四百二十リットル</p>	<p>三百九十二人</p>
<p>福岡刑務所</p>	<p>二十九万リットル及び図書棚八百六十五リットル</p>	<p>千五百五十二人</p>
<p>小倉刑務所</p>	<p>三万五千九百四リットル</p>	<p>六百五十二人（改築中）</p>
<p>城野医療刑務所</p>	<p>四十五リットルの容器二百五十六個</p>	<p>二百十八人</p>
<p>麓刑務所</p>	<p>六十リットルの容器四百個</p>	<p>百九十八人</p>
<p>長崎刑務所</p>	<p>四十リットルの容器千四十個</p>	<p>七百十二人</p>

佐世保刑務所	未決被收容者は、一万千三百二十八リットル、既決被收容者は、五万六千三百八十八リットル	未決被收容者は、六十四人、既決被收容者は、四百四十四人
大分刑務所	六十リットルの容器千九百八十六個	九百九十三人
熊本刑務所	五十リットルの容器九百二十二個	六百十六人
鹿児島刑務所	八十二リットルの容器八百七十個	四百九十八人
宮崎刑務所	八十三リットルの容器五百四個及び図書棚一万八百九十六リットル	四百五十四人
沖縄刑務所	三万三千十六リットル	三百十九人
佐賀少年刑務所	五十五リットルの容器千八個	六百人
福岡拘置所	十一万九千三十六リットル	六百人
宮城刑務所	四十三リットルの容器二千三百六十八個	九百二人
福島刑務所	未決被收容者は、七千八リットル、既決被收容者は、五万七千四百五十一リットル	未決被收容者は、六十人、既決被收容者は、五百二十五人

函館少年刑務所	網走刑務所	帯広刑務所	釧路刑務所	旭川刑務所	月形刑務所	札幌刑務所	盛岡少年刑務所	青森刑務所	秋田刑務所	山形刑務所
五十二リットルの容器七百六十個、三十八リットルの容器八百個	八万四千八百十リットル	八十五リットルの容器四百三十二個、二十五リットルの容器四百三十二個	四万二千百七十六リットル	三十六リットルの容器千百十三個	六十四リットルの容器千二百個	十六万四千六百四十リットル	七十二リットルの容器四百六十八個	二万三百九十一リットル	八万三千七百リットル	五十二リットルの容器千二百十個
八百一人	七百三十五人	四百三十二人	三百二十一人	三百七十一人	六百人	千十五人	四百六十八人	五百人(改築中)	三百八十九人	六百五人

高松刑務所	三十八リットルの容器二千五百三十二個	八百四十四人
徳島刑務所	六十八リットルの容器千七十個	八百二十三人
高知刑務所	六十四リットルの容器七百二十個	四百九十二人
松山刑務所	五万八千九百九十リットル	六百九十四人
八王子拘置支所	五十五リットルの容器三百個	百五十人
横浜拘置支所	五十四リットルの容器千二百十二個	六百七人
宇都宮拘置支所	四十五リットルの容器三百二個	百五十一人
長野拘置支所	八十七リットルの容器六十三個	六十人
浦和拘置支所	九十二リットルの容器三百五十三個	三百五十三人
水戸拘置支所	三十五リットルの容器三百八十四個	百九十二人
丸の内拘置支所	七十二リットルの容器二百二十個	百六十人

札幌拘置支所	三万九千七百五十リットル	三百十二人
柳町拘置支所	八千六百四十リットル	四十六人
仙台拘置支所	四十三リットルの容器四百九十五個	百九十人
那覇拘置支所	二万四千五百二十九リットル	二百三十七人
鹿児島拘置支所	八十二リットルの容器百九十九個	百九十九人
京町拘置支所	百二十リットルの容器百八十個	百八十人
長崎拘置支所	四十リットルの容器二百三十一個	八十七人

別表三

施設名	実収容人員	一日平均収容人員
府中刑務所	二千二百六十七人	二千二百九十六人
八王子医療刑務所	三百十人	三百四人
横浜刑務所	七百八十七人	八百五十六人
横須賀刑務所	百六十八人	百三十八人
千葉刑務所	八百七十七人	八百七十四人
市原刑務所	二百十六人	二百三人
黒羽刑務所	千五百七十一人	千五百六十七人
栃木刑務所	四百五十一人	四百五十二人
前橋刑務所	六百三十一人	六百四十七人
静岡刑務所	八百七十三人	八百五十一人
甲府刑務所	五百七十八人	五百六十人

長野刑務所	六百二十八人	六百十九人
新潟刑務所	七百六十三人	七百六十人
川越少年刑務所	千七百七十四人	千八百八十七人
水戸少年刑務所	三百八十九人	三百九十七人
松本少年刑務所	三百四十五人	三百三十五人
東京拘置所	二千八十人	二千三十四人
大阪刑務所	千九百十八人	千九百六十五人
京都刑務所	千八人	千三十六人
神戸刑務所	千六百四十五人	千五百九十五人
加古川刑務所	五百四十七人	五百四十八人
滋賀刑務所	六百十人	五百六十八人
和歌山刑務所	四百三十九人	四百五十一人
姫路少年刑務所	三百十人	二百七十五人

奈良少年刑務所	六百六十一人	六百四十六人
大阪拘置所	千九百六十四人	千八百四十四人
京都拘置所	三百六人	三百十五人
神戸拘置所	二百九十五人	二百七十六人
名古屋刑務所	千八百二十一人	千八百十八人
岡崎医療刑務所	百八十七人	百八十五人
三重刑務所	五百六十人	五百五十四人
岐阜刑務所	六百五十人	五百八十二人
笠松刑務所	四百三十六人	四百二十九人
福井刑務所	三百二十九人	三百二十一人
金沢刑務所	五百三十六人	五百三十五人
富山刑務所	四百五十四人	四百三十三人
名古屋拘置所	五百五十七人	五百六十三人

佐世保刑務所	長崎刑務所	麓刑務所	城野医療刑務所	小倉刑務所	福岡刑務所	広島拘置所	松江刑務所	鳥取刑務所	岡山刑務所	岩国刑務所	山口刑務所	広島刑務所
四百二十一人	五百六十四人	二百十八人	百六十九人	百人	千四百九十五人	二百十五人	四百三十五人	四百三十九人	七百二十人	三百六十三人	四百八十三人	九百七十八人
三百九十八人	六百二人	二百一人	百六十三人	九十六人	千三百八十人	二百三十二人	三百九十八人	四百五人	七百十九人	三百六十二人	四百八十一人	九百八十四人

盛岡少年刑務所	青森刑務所	秋田刑務所	山形刑務所	福島刑務所	宮城刑務所	福岡拘置所	佐賀少年刑務所	仲縄刑務所	宮崎刑務所	鹿児島刑務所	熊本刑務所	大分刑務所
三百四十六人	四百三十四人	三百十三人	五百四十八人	四百五十一人	八百六十八人	五百六人	四百二十一人	二百六十六人	四百三人	四百四十九人	五百十五人	六百二十三人
三百十八人	四百三十八人	二百八十九人	五百七十八人	四百九十一人	八百七十一人	五百人	三百七十人	二百二十六人	三百九十一人	四百十四人	五百六人	五百九十三人

札幌刑務所	八百七十三人	八百十人
月形刑務所	五百十六人	四百九十九人
旭川刑務所	二百四十六人	二百八十四人
釧路刑務所	二百二十人	二百二十四人
帯広刑務所	三百二十七人	三百四十七人
網走刑務所	六百五人	五百九十三人
函館少年刑務所	六百六十人	六百四十七人
高松刑務所	七百五十人	七百二十四人
徳島刑務所	六百三十三人	六百六十人
高知刑務所	四百五人	四百一人
松山刑務所	六百十八人	五百九十七人
八王子拘置支所	百八人	百十人
横浜拘置支所	三百六十九人	四百六十八人

宇都宮拘置支所	百三十四人	百二十五人
長野拘置支所	十五人	二十三人
浦和拘置支所	二百一人	百九十九人
水戸拘置支所	百二十九人	百二十一人
丸の内拘置支所	六十人	七十九人
長崎拘置支所	五十三人	五十九人
京町拘置支所	百三人	百十三人
鹿児島拘置支所	百八人	百十三人
那覇拘置支所	百三十人	百十七人
仙台拘置支所	百人	八十三人
柳町拘置支所	二十一人	二十四人
札幌拘置支所	百七十人	二百四人

別表四

施設名	本年三月二日現在の領置物の総量
府中刑務所	四十三リットルの容器で三千五百四十一個
八王子医療刑務所	四十六リットルの容器で三百九十六個
横浜刑務所	五十四リットルの容器で千六百三十五個
横須賀刑務所	四十八リットルの容器で三百五個
千葉刑務所	五十四リットルの容器で千百個
市原刑務所	五十リットルの容器で二百二十八個
黒羽刑務所	十四万千リットル
栃木刑務所	四十リットルの容器で六百四個
前橋刑務所	五十リットルの容器で千四十九個
静岡刑務所	五十三リットルの容器で千百二十八個
甲府刑務所	四十五リットルの容器で八百五十個

長野刑務所	八十七リットルの容器で六百五十七個
新潟刑務所	五万九千七十三リットル
川越少年刑務所	三十六リットルの容器で千八百九十五個
水戸少年刑務所	三十五リットルの容器で五百二十個
松本少年刑務所	四十リットルの容器で五百二十二個
東京拘置所	四十六リットルの容器で三千九百個
大阪刑務所	三十六リットルの容器で四千七十四個
京都刑務所	十二万九千六百十リットル
神戸刑務所	五十五リットルの容器で三千百九十個
加古川刑務所	四十六リットルの容器で六百八十個
滋賀刑務所	五万四千三百二十六リットル
和歌山刑務所	四十二リットルの容器で五百六十九個
姫路少年刑務所	五十七リットルの容器で三百七十六個

奈良少年刑務所	三十六リットルの容器で八百九十六個
大阪拘置所	五十リットルの容器で三千九百六十七個
京都拘置所	五十リットルの容器で四百十五個
神戸拘置所	五十八リットルの容器で四百九十個
名古屋刑務所	七十二リットルの容器で千八百六十七個
岡崎医療刑務所	五十二リットルの容器で三百二十四個
三重刑務所	五十二リットルの容器で六百八十二個
岐阜刑務所	五万千二百七リットル（図書棚を含む。）
笠松刑務所	三十四リットルの容器で五百三十六個
福井刑務所	六十七リットルの容器で六百六十四個
金沢刑務所	六十リットルの容器で八百六十四個
富山刑務所	四十一リットルの容器で六百九十六個
名古屋拘置所	四十九リットルの容器で千四十一個

廣島刑務所	七十二リットルの容器で千八百七十九個
山口刑務所	三万五千百リットル
岩国刑務所	四十五リットルの容器で五百三十四個
岡山刑務所	未決被収容者は、六十リットルの容器で二百五十七個、既決被収容者は、六十九リットルの容器で九百七十六個
鳥取刑務所	未決被収容者は、五十八リットルの容器で二十八個及び図書棚四十九リットル、既決被収容者は、五十八リットルの容器で五百四個及び図書棚一万四百十六リットル
松江刑務所	三万三千四百三十六リットル（図書棚を含む。）
広島拘置所	一万七千リットル
福岡刑務所	二十六万リットル（図書棚を含む。）
小倉刑務所	四千五百六十二リットル
城野医療刑務所	四十五リットルの容器で百八十六個
麓刑務所	六十リットルの容器で二百七十一個

長崎刑務所	四十リットルの容器で八百十二個
佐世保刑務所	未決被収容者は、七百五十リットル、既決被収容者は、五万五千五百四十四リットル
大分刑務所	六十リットルの容器で六百七十八個
熊本刑務所	五十リットルの容器で五百三十六個
鹿児島刑務所	八十二リットルの容器で六百個
宮崎刑務所	八十三リットルの容器で四百一十個及び図書棚九千八百六十四リットル
沖縄刑務所	二万八百六十二リットル
佐賀少年刑務所	五十五リットルの容器で八百五十八個
福岡拘置所	五万九千二百八十七リットル
宮城刑務所	四十三リットルの容器で千五百六十一個
福島刑務所	未決被収容者は、千三百六十八リットル、既決被収容者は、三万四千四百五十六リットル
山形刑務所	五十二リットルの容器で六百九十二個

秋田刑務所	二万四千百三十一リットル
青森刑務所	二万五千九百六十リットル
盛岡少年刑務所	七十二リットルの容器で三百四十個
札幌刑務所	十一万九千八百四十リットル
月形刑務所	六十四リットルの容器で八百七十五個
旭川刑務所	三十六リットルの容器で五百九十二個
釧路刑務所	二万六千三百三十八リットル
帯広刑務所	八十五リットルの容器で二百二十三個、二十五リットルの容器で三十二個
網走刑務所	五万五千二百六十一リットル
函館少年刑務所	五十二リットルの容器で七百六十個、三十八リットルの容器で六百二十六個
高松刑務所	三十八リットルの容器で千四百九十六個
徳島刑務所	六十八リットルの容器で八百三十九個

高知刑務所	六十四リットルの容器で四百二十八個
松山刑務所	五万三千二百十リットル
八王子拘置支所	五十五リットルの容器で百三十個
横浜拘置支所	五十四リットルの容器で五百九十五個
宇都宮拘置支所	四十五リットルの容器で二百六十八個
長野拘置支所	八十七リットルの容器で十五個
浦和拘置支所	九十二リットルの容器で百九十四個
水戸拘置支所	三十五リットルの容器で百六十五個
丸の内拘置支所	七十二リットルの容器で六十六個
長崎拘置支所	四十リットルの容器で五十八個
京町拘置支所	百二十リットルの容器で百個
鹿児島拘置支所	八十二リットルの容器で百個
那覇拘置支所	九千四百四十八リットル

<p>仙台拘置支所</p>	<p>四十三リットルの容器で百二十九個</p>
<p>柳町拘置支所</p>	<p>千三百六十リットル</p>
<p>札幌拘置支所</p>	<p>二万二千五百リットル</p>

別表五

施設名	領置物の総量を超えていた被収容者の人数	超過容量の合計
府中刑務所	六十四人	五千三百三十二リットル
八王子医療刑務所	十二人	七百三十六リットル
横浜刑務所	十八人	千五百三十二リットル
横須賀刑務所	十人	七百五十一リットル
千葉刑務所	十五人	九百七十二リットル
市原刑務所	該当者なし	
黒羽刑務所	六十四人	五千七百六十リットル
栃木刑務所	三十五人	九百リットル
前橋刑務所	五十一人	三千八百五十リットル
静岡刑務所	四人	百三十六リットル

甲府刑務所	十三人	千三百六十五リットル
長野刑務所	四十八人	千六百九十四リットル
新潟刑務所	二十一人	二千九百五十八リットル
川越少年刑務所	二百二十一人	不明
水戸少年刑務所	三十人	九百十四リットル
松本少年刑務所	該当者なし	
東京拘置所	八十九人	四万五千九百五十リットル
大阪刑務所	二十三人	三千五百八十八リットル
京都刑務所	二十六人	千八百八十五リットル
神戸刑務所	二十二二人	五千八百八十五リットル
加古川刑務所	七人	千八百四十リットル
滋賀刑務所	一人	六十二リットル
和歌山刑務所	十三人	二千百四十二リットル

富山刑務所	九人	二百四十七リットル
金沢刑務所	十一人	四千八百六十リットル
福井刑務所	二十二二人	三千三百五十リットル
笠松刑務所	三人	二百四リットル
岐阜刑務所	二十二二人	三千百九十二リットル
三重刑務所	該当者なし	
岡崎医療刑務所	一人	百十四リットル
名古屋刑務所	三十一人	三千八百十六リットル
神戸拘置所	十一人	三千五百三十八リットル
京都拘置所	八人	千三百リットル
大阪拘置所	五十一人	一万二千二百五十リットル
奈良少年刑務所	該当者なし	
姫路少年刑務所	五十一人	二千二百リットル

名古屋拘置所	十六人	五千五百三十七リットル
広島刑務所	六十八人	一万七千六百二十六リットル
山口刑務所	該当者なし	
岩国刑務所	該当者なし	
岡山刑務所	八人	三百二十七リットル
鳥取刑務所	十五人	八百八十二リットル
松江刑務所	十九人	千八百二十リットル
広島拘置所	十二人	二千三百リットル
福岡刑務所	十六人	三千四百二十リットル
小倉刑務所	一人	百三十六リットル
城野医療刑務所	六人	四百九十五リットル
麓刑務所	三人	百八十リットル
長崎刑務所	二人	四百十六リットル

佐世保刑務所	五人	四百七十リットル
大分刑務所	該当者なし	
熊本刑務所	百十人	八千二百五十リットル
鹿児島刑務所	三人	七百四十五リットル
宮崎刑務所	四人	三百三十三リットル
沖縄刑務所	二人	百七十一リットル
佐賀少年刑務所	十五人	千二百三十七リットル
福岡拘置所	五十八人	八千二十四リットル
宮城刑務所	九十四人	七千七百五十三リットル
福島刑務所	二十六人	千八百九十八リットル
山形刑務所	該当者なし	
秋田刑務所	一人	五百七十三リットル
青森刑務所	該当者なし	

盛岡少年刑務所	該当者なし	
札幌刑務所	百十六人	一万六千二百四十リットル
月形刑務所	一人	百九十二リットル
旭川刑務所	六十七人	九千六百四十八リットル
釧路刑務所	該当者なし	
帯広刑務所	十人	二百七十リットル
網走刑務所	四十七人	二千百二十リットル
函館少年刑務所	七人	四百十三リットル
高松刑務所	三十一人	二千四百三十二リットル
徳島刑務所	一人	百三十六リットル
高知刑務所	四十七人	千三百六十リットル
松山刑務所	該当者なし	
八王子拘置支所	三人	八百八十リットル

横浜拘置支所	四人	百一リットル
宇都宮拘置支所	該当者なし	
長野拘置支所	該当者なし	
浦和拘置支所	十三人	千三百五十リットル
水戸拘置支所	該当者なし	
丸の内拘置支所	一人	二百十六リットル
長崎拘置支所	該当者なし	
京町拘置支所	該当者なし	
鹿児島拘置支所	該当者なし	
那覇拘置支所	一人	四十九リットル
仙台拘置支所	四人	三百九十四リットル
柳町拘置支所	該当者なし	
札幌拘置支所	二人	三百七十五リットル

別表六

東京拘置所	水戸少年刑務所	施設名
平成十年六月九日	平成九年十二月十二日	年月日
図書	衣類	対象物
差入れ	差入れ	の差入れ・購入
<p>経過措置規定に より当該被収容 者の領置物の総 量二千九百六十 二リットルのと ころ、衣類の保 以外の物の保 量二千七百四十 一リットルを六 百三十九リット ル超過していた。</p>	<p>経過措置を定め る規則の附則2 (以下「経過措 置規定」とい う。)に「領置 量」を「施行時 に入れが超える 差」に改めると した。</p>	<p>処分の根拠と なった数量超過 の細目</p>
五年四月	三月	当該被収容者の 収容期間

同右	同右	同右
平成十年六月十七日	平成十年六月十六日	平成十年六月十一日
図書	衣類	図書
差入れ	差入れ	差入れ
<p>経過措置規定に より領置物の収容に 超過し、 五個に 着下衣 し、 四十個 数、 六十個 ろ、 八十個 リ、 ト、 着上 量、 ト、 百個 者、 千個 より領置物の収容に 経過措置規定に 超過し、 百三十九個 ル、 超過し、 た。</p>	<p>経過措置規定に より領置物の収容に 超過し、 五個に 着下衣 し、 四十個 数、 六十個 ろ、 八十個 リ、 ト、 着上 量、 ト、 百個 者、 千個 より領置物の収容に 経過措置規定に 超過し、 百三十九個 ル、 超過し、 た。</p>	<p>経過措置規定に より領置物の収容に 超過し、 百三十九個 ル、 超過し、 た。</p>
二十一年五月	九年三月	五年四月

同右	同右	
平成十年九月十日	平成十年七月八日	
図書	図書	
購入	購入	
<p>経過措置規定に より当該被収容 者の領置物の総 量二千九百四十 リットルと 四、衣類の保 こ、物の類の保 以外の物の類の保</p>	<p>経過措置規定に より当該被収容 者の領置物の総 量二千九百四十 リットルと 四、衣類の保 こ、物の類の保 以外の物の類の保 量以外、衣類の保 一、二千六百九十 百七十四リット ル。超過してい</p>	<p>経過措置規定に より当該被収容 者の領置物の総 量二千九百四十 リットルと 四、衣類の保 こ、物の類の保 以外の物の類の保 量以外、衣類の保 千六百九十 リットルを八百 七十四リットル 超過していた。</p>
二十一年八月	二十一年六月	

同右	同右	
平成十一年一月五日	平成十年十一月二十五日	
図書	図書	
差入れ	購入	
<p>経過措置規定に より当該被収容 者の領置物の総 量千三百五十 ト類の器具以外 衣類の保管量八 物の保管量を三 リットの量を三 二ッを三百 超過していた。</p>	<p>経過措置規定に より当該被収容 者の領置物の総 量二千一百リ ルの器具以外、 類の保管量千八 の保管量千八百 十二リットルを 千六百六十リッ ト六超過してい た。</p>	<p>量二千六百九十 一リットルを八 百二十八リッ ル超過してい た。</p>
九年十月	二十一年十月	

同右	同右	同右
平成十一年二月十九日	平成十一年二月十六日	平成十一年二月八日
図書	図書	図書
差入れ	差入れ	購入
<p>経過措置規定に よる領置物の収容 量三千五百ツ</p>	<p>経過措置規定に よる領置物の収容 量千八百五十 リ、ト八五の ろ、衣類の具 外、物の保 千、七、七、 ト、を五、六、 一、ル、ト、 していた。</p>	<p>経過措置規定に よる領置物の収容 量二千一ツの ル、と、外、 の、保、具、 十、二、リ、 千、六、百、 ト、超、過、 た。ル、超、 過、し、て、 い、</p>
九年十一月	二十五年五月	二十二年一月

福岡拘置所	同右	大阪拘置所	
平成十年五月十三日	平成十年九月十六日	平成十年三月三日	
衣類	衣類	衣類	
差入れ	差入れ	差入れ	
<p>者より経過措置規定に 領置物の収容に 総</p>	<p>者より経過措置規定に 領置物の収容に 総</p>	<p>置一人当たり百五十 十リットル以上の衣類 こ、上、衣類のし 数、及び下に衣類のし 八個及び下に衣類のし 二個を超えて対しい た。</p>	<p>トルのところで、 衣類の器具以外 物の保量八百 リットルを三百 二十リットル 超えていた。ル</p>
七月	四年五月	二月	

同右		同右	
平成十年十一月四日		平成十年七月十三日	
衣類		衣類及び図書	
差入れ		差入れ	
者よ経過の領置物の収容に	超過し、九リットルに	置一人当たり二百二十	た。超過し、二個に
一年一月		三月	

同右	同右	
平成十一年一月 四日	平成十年十二月 二十一日	
衣類及び図書	図書	
差入れ	差入れ	
経過措置規定に よる当該被収容 者の領置物の総 量二百一十八 リットルとこ ろ、上りのと ろ、下の対し 十六個の数 個	一人当たり百 二十九リット と、外物の類 具以外物の保 管量六十リッ トに對し、超 八リットルを し、超過した	量二百一十八 リットルとこ ろ、上りのと ろ、下の対し 十六個の数 個、二個に對 し、一個一個 の数、二個に 對し、一個一 た。超過した
一年三月	二月	

同右	同右	
平成十一年一月十八日	平成十一年一月十一日	
衣類及び図書	図書	
差入れ	差入れ	
一人当たり百二十個の総量 置物の総量 十個、上衣服 と、二個、上衣服 数、二個、上衣服 三、二個、上衣服 六、二個、上衣服 個、二個、上衣服 八、二個、上衣服 十、二個、上衣服 靴下の対し、六個	一人当たり百二十個の総量 置物の総量 十個、上衣服 と、二個、上衣服 数、二個、上衣服 管具以外、九個 器具以外、九個 管量六個、九個 リットル対し、二十 ていた。超過し	個人及び衣類 以外、保管量 十九リットル 対し、三十リットル 超過して
一年二月	二月	

同右	同右	同右	
平成十一年二月九日	平成十一年二月九日	平成十一年二月九日	
図書	図書	図書及びタオル	
購入	購入	差入れ	
一人当たりの領 置物の総量百二	一人当たりの領 置物の総量百二 と九リ、衣類の 具以外、保類 六十九リ、保 に對し、リット ル。超過してい	一人当たりの領 置物の総量百二 と九リ、衣類の 具以外、保類 六十九リ、保 に對し、リット ル。超過してい	六個に對し、 及び衣類、 外の保類、 九リ、保類 外、保類、 五リ、保類 過していた。 ルに對し、 超
二月	一年二月	六月	

同右	同右	同右	
平成十一年二月 二十二日	平成十一年二月 十六日	平成十一年二月 十日	
図書	図書及びタオル	衣類	
差入れ	差入れ	差入れ	
一人当たりの領 十置物の総量の百二	一人当たりの領 十置物の総量の百二 と九リットルの 具以外、衣類の 六十九リットル に對し二リットル を超過していた。	一人当たりの領 十置物の総量の百二 と九リットル、下 一個六個に對し 一個超過してい た。	十九リットルの と九リットルの 具以外、物の保 管量六十九リッ トルに對し四 リットル超過し ていた。
六月	六月	一月	

同右	同右	
平成十一年二月二十三日	平成十一年二月二十二日	
図書	図書及びタオル	
購入	差入れ	
一人当たりの領 置物の総量百二 十九リットルの と、衣類の 具以外、保 具以外、保 六十九リッ に、対して た。超過して た。超過して	一人当たりの領 置物の総量百二 十九リットルの と、衣類の 具以外、保 具以外、保 六十九リッ に、対して た。超過して た。超過して	と、衣類の保 具以外、物 管量六十九 トルに、対 リットル超 ていた。超
一年三月	十月	